

# 横畑知己先生の歩みと 本学でのお働きについての短い随想

横畑知己先生は、戦後復興期に岡山県の山村地域に生を享けられ、大学で上京するまでこの地で少年時代を過ごされています。高度経済成長に伴い、日本列島の風景が様変わりする時代、衣食住のすべてが人々の生の営みが根づいた土地から引きはがされていくなかで、失われゆく濃密な時間の流れに哀惜の思いを抱きながら、多感な思春期を過ごされました。

この時代に故郷の地で培われた心性は、上京され、大学教員となられたあとも、定年退職の日まで変わらず、横畑先生の奥深くに息づいていたように思います。昭和から平成、令和と続く時代の潮流に乗ることなく、自動車の免許も取得されず、携帯電話、スマートフォンも所有されず、一貫してアナログの生活を守っておられました。

横畑先生は、隠れ家的な喫茶店や小料理屋など、昭和の香りのする味わい深いお店をよくご存じで、いろいろなお店を紹介していただきました。どのお店も温かい雰囲気にもまれており、紹介していただいたお店が一軒一軒閉店となるたびに、寂しさを感じました。また、横畑先生とともにゆったりとした時間を過ごさせていただくと安心感に包まれるため、重厚な蔵書が美しく並べられている先生の研究室に長居をさせていただくこともしばしばありました。横畑先生からは、いつも人を惹きつけ、安心させるオーラが滲み出ていましたから、私に限らず、多くの人々が安心感を感じられていたことと思います。

研究におけるご専門は、教育史であり、東京大学大学院時代には、日本教育史の泰斗である寺崎昌男先生に師事されました。教育史のなかでも、とくに、数学教育史、民間教育研究団体史などを深めてこられました。また、哲学、とりわけ教育哲学に対しての造詣も深く、東京大学教育学部に屹立した勝田守一先生の思想と実践を高く評価し、その人格形成史の研究にも着手されていました。このほか、大田堯先生や堀尾輝久先生をはじめとする、戦後教育学を担った教育学者の問題意識を継承しつつ、歴史を学び、歴史から学ぶことの大切さを後進に語っていただきました。

横畑先生は外国史、とりわけヨーロッパの歴史に関心をお持ちで、EUの揺らぎも感じられる近年、センターのゼミナールである総合教育演習において、ヨーロッパ諸国の国民国家成立にいたる過程の学び直しを研究テーマとして扱われたこともありました。時代を遡りますと、1998年には在外研究で英国ノッティンガム大学に赴き、イギリスの研究者とも交流を深められ、歴史教育についての問題意識を明確にして、帰国されました。帰国後は、これまでの教育史、道徳教育に加えて、地理歴史科指導法を担当されて、教職を志望する学生たちに幅広い歴史の学びの機会を準備しつつ、歴史教育の実践にも尽力してこられました。

2014年度からは本学の教職課程の専任教員としてはじめて全学共通教育センター長に選

横畑知己先生の歩みと本学でのお働きについての短い随想

出され、さまざまな専門領域に及ぶセンター所属の教員をまとめられる役割を担われました。ここまで培ってこられた幅広い学問領域にわたる教養と飽くなき知的関心が、センターの研究、教育を俯瞰する上での土台となっていました。

最後に、本学の教職課程におけるお働きについて紹介をさせていただきます。1995年にコミュニケーション学部が開設されたことに伴い、教育心理学担当の瀧澤三千代先生が教職課程担当からコミュニケーション学部に移られ、同年、教育学担当の田中孝彦先生が北海道大学教育学部に引き抜かれるという“事件”が生まれました。本学の教職専任教員が着任4年目の横畑先生ただお一人になるという存亡の危機に直面されたのです。

このような危機のなか、横畑先生は、周りの先生方に大学運営ならびに大学教育における教職課程の意義を伝えられて、沈着冷静に新たな人事に着手されました。そして、1996年には田中先生の後任として教育学の中野新之祐先生を、1997年には瀧澤先生の後任として教育方法学の高井良を、本学の教職課程に迎え入れ、新たな教職課程の体制を確立されました。このトロイカの新体制は、2018年に中野新之祐先生が定年退職されるまで、20年以上に及びました。この間、横畑先生は、変わらず教職課程の中心的な存在として要石のお働きをされました。中野先生の後任として寺田佳孝先生を迎えたのちも、ご退職までの間、教職課程の重鎮として、後進の私たちを温かくご指導いただきました。

多くの学生たちを育てられ、また、多くの同僚にも慕われた横畑知己先生の本学での30年以上の歩みに敬意を表するとともに、その教養、博学、寛容さを、本学ならびに全学共通教育センターの文化として継承していきたいと願っています。末筆ながら、横畑先生のますますのご活躍とご健勝を祈願いたします。

前全学共通教育センター長 高井良健一